

やくそく

アフリカ 水と緑



子どもの夢を育てる国際交流映画

全国視聴覚教育連盟事務局長

関口 勇

絵柄も色合いもおだやかで落ち着いた素晴らしい作品。時間はわずか16分だが中身は豊富である。

それは、いくつかの点があげられるが、まず、アフリカの砂漠に涸れない井戸を作る技術の伝授と緑をという、日本の海外援助活動を子ども向けに紹介していることが、第一点にあげられよう。

そして、そうした話の中に登場するアキラ少年とカリム少年との美しい友情が語られる。

幼い二人が涙の別れをする時に交換したく仮面の首飾りとくお守り。

「僕、さっと帰ってくる」「ほんとう!」と堅く交わしたく約束が、15年の後に実現する。

それも、アキラは新たにアフリカの砂漠に緑をもたらす技術を伝えに、

そしてカリムは、アキラの父親が伝えていった技術の継承者として活躍している。

この2人の若者の再会交流こそ、まさに国際化時代にふさわしい物語である。

カリムがなぜボーリング技術者になったのかは、子どもの時に渇水に悩む人びとに清らかな水を与える

科学技術への強い憧れ、この若き日の感激こそ原動力となっていることを見逃してはなるまい。

さらに、砂アラシやかんばつの激しさを映画で子供たちに見せることによって、

水の大切さを実感をもって教え、水と緑と自然への新たな知識を育てることに役立つであろう。

文部省選定
国際産業映画ビデオ祭
審査委員特別賞



■企画

国際協力事業団

■製作

株式会社 桜映画社

■アニメーション・カラー・16分

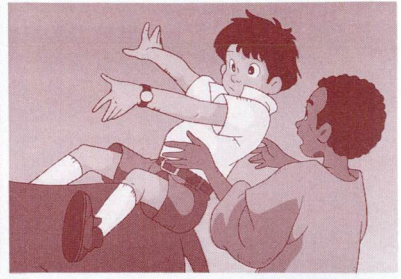
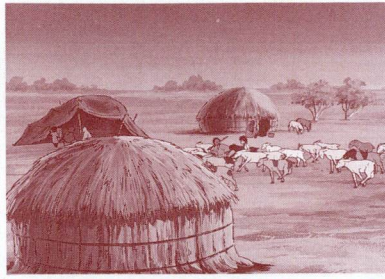
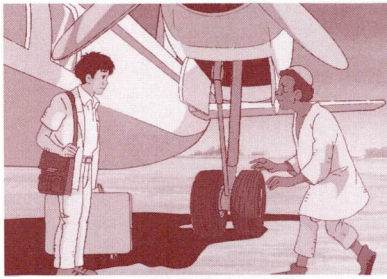
■価格

16ミリ＝135,000円(消費税別)



■配給

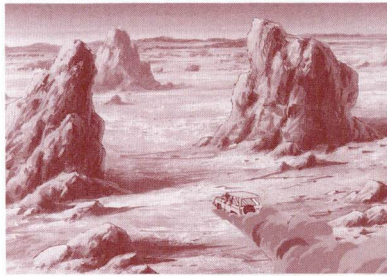
■あらすじ



1 主人公のアキラは、砂漠緑化計画の技術協力のため、西アフリカにやってきました。

2 15年前、彼は深井戸掘り(地下水開発)の指導をしていた父について、この地を訪れたことがあった。

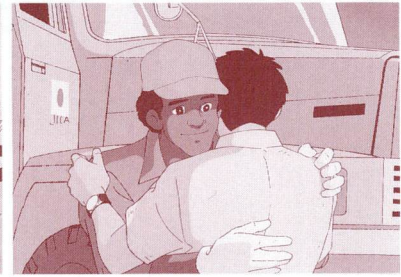
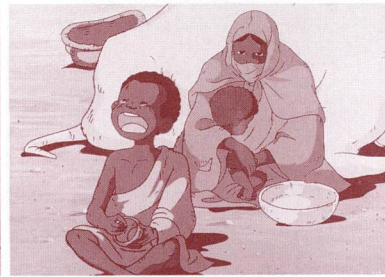
3 そこでカリムという少年と仲良しになり、彼や動物たちと楽しい日々を過ごした。



4 アキラは早速カリムの消息をたずねたが、その行方はわからなかった。

5 しかし、父が指導して作った井戸をたずね、それが今も人々に利用され、喜ばれていることを知る。

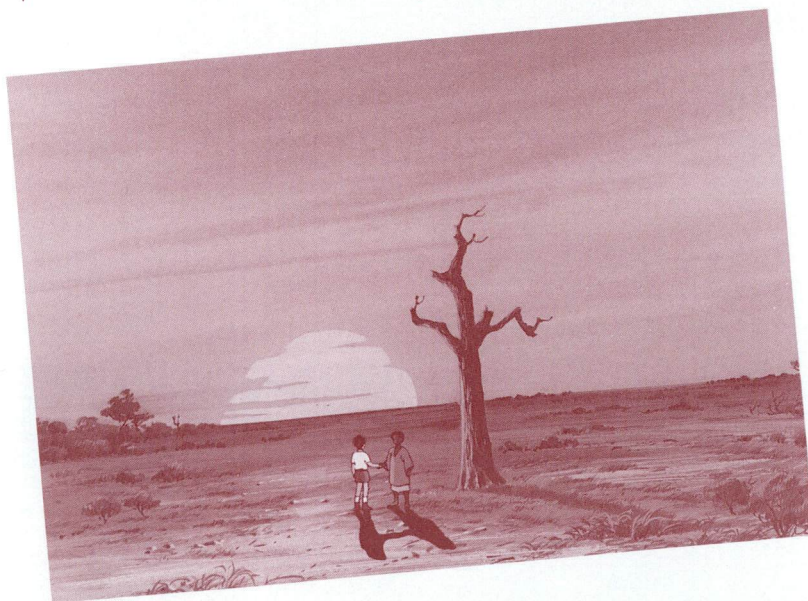
6 アキラたちの砂漠緑化計画は、苗木作りから始まった。それは順調に進むかのようにみえた。



7 ところが、その年はかんばつになり、水不足のため苗木は枯れはじめた。

8 遊放民たちも水を求めて集まってきたが、浅井戸も涸れ、飲み水にも困る深刻な事態になってしまった。

9 いよいよ万事休す、という時にボーリング隊がかけつける。その隊長は、アキラの父の技術を立派に受けついでいたカリムであった。



約束

アフリカ 水と緑

■対象・用途

- 小学校(高学年):社会科・国際理解
- 学校映画教室
- 地域社会活動:
児童館、子ども会の映画会 親子映画会

■製作スタッフ

製作:村山英世
脚本:花崎 哲
演出:矢吹公郎
作画監督:我妻 宏
美術:横山幸博
撮影:玉川芳行
作曲:長沢勝俊
編集:千蔵 豊
録音:タバック

■製作—株式会社

桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666